

令和5年度 第2回羽曳野市介護保険等推進協議会（議事概要）

〔開催日時及び開催場所〕

日時 令和5年7月24日（月）午後1時45分～

場所 羽曳野市役所 別館 2階研修室

〔委員出席者〕

畑副会長、和泉副会長、徳村委員、竹中委員、調子委員、木下委員、大友委員、高木委員
鎌田委員、阪本委員、氏家委員、酒井委員、眞銅委員、近藤委員、笠原委員、渡辺委員

〔会議次第〕

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 市長あいさつ（代行して保健福祉部長あいさつ）
- (3) 会長あいさつ（代行して畑副会長あいさつ）
- (4) 第8期事業運営のまとめと第9期計画策定の課題
- (5) 今後の審議について
- (6) 介護予防支援室長まとめ・あいさつ

〔資料〕

- 〔推進協資料1〕 第8期計画のまとめ（中間整理）
- 〔推進協資料2〕 中長期の人口動態及びサービス需要の見込み
- 〔推進協資料3〕 第9期計画の論点整理
- 〔推進協資料4〕 推進協議会委員の意見反映
- 〔推進協資料5〕 第9期高齢者いきいき計画の作成スケジュール
- 〔参考資料〕 基本指針の構成について（社会保障審議会介護保険部会資料）
次第

〔議事概要〕

1. 委嘱状の交付

2. 保健福祉部長あいさつ

本日はご多忙中にも関わらず、令和5年度第2回羽曳野市介護保険等推進協議会にご出席賜りありがとうございます。新型コロナウイルス感染症も5類に変更されまして、ようやくコロナ前の生活に戻るのかと思いきや、現在感染拡大の傾向にあり、直近の情報では、南河内は定点あたりの患者数が全国平均の11.04を上回る11.91で、大阪府下では堺市に次ぐ2番目に多い患者数となっています。皆様におかれましても、引き続き感染予防にご留意いただきますとともに、60歳以上や基礎疾患のある方におかれましては、コロナワクチンの追加接種もご検討いただきますようよろしくお願いいたします。

さて、本日の会議では、第8期計画のまとめ（中間整理）や現時点の中長期推計をお示しし、皆様からご意見を賜りたいと考えています。簡単ではございますが、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。

3. 副会長あいさつ

今回は、第9期計画に向けて、より良いものにしていこうということで、皆様からのご意見、ご提案をいただき、それをみんなで考えていく会議としたいと考えています。是非とも積極的なご意見の方をいただ

きますようお願いいたします。

4. (審議事項)「4. 第8期事業運営のまとめと第9期計画策定の課題(資料及び論点整理を踏まえて)」

《畑副会長から審議方法等の説明。その後審議》

(副会長)

次第4として、「第8期事業運営のまとめと第9期計画策定の課題(資料及び論点整理を踏まえて)」が議題となります。今回の会議では、ご出席の委員の皆様から、第9期の計画の策定に向けまして、ご意見、ご提案をいただくことを主眼とします。次回の第3回の会議からは、計画の骨子や費用推計の段階に入りますので、本日の段階が非常に重要であり、一旦皆様のお考えをお伺いしたいというものです。それぞれ所属とかお立場、また個人的にでも結構ですので、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

事務局側からは「論点整理」ということで、まとめた資料もあり、これも参考としながら、ご意見を賜りたいと思っております。事前に提出のありました意見提出書は、当日資料として配布されています。

(委員)

老人クラブは何をやっているのかということをご提言書に書かしていただきました。

いきいき100歳体操は、老人クラブと民生委員で実施をされています。資料のまとめでは、「最近増えて定着を目指した活動になっている」と書かれています。一部の町会で施設を利用する場合に使用料を払うように言われることがあって苦慮をしています。老人クラブの活動を理解されていないことなど何か問題があるのではないかと考えています。

羽曳野市では97の単位クラブがあります。会員数の減と、高齢化の問題があり、今後どのように進めたらいいかということでは、羽曳野市、社協、町会、民生委員等の協力なくしてはやっていけないと思っております。

(副会長)

非常に重要な指摘で、今後高齢化の問題とか、各老人クラブさん、民生委員さんが町会単位でいろんな活動をされている上での問題が出てきているというようなお話でした。その辺のサポート体制もある意味重要なテーマなのかなと思います

社協として、社協の地域活動を支援するという視点から計画に向けて何かご提言いただけますか。

(委員)

社会福祉協議会は、地域福祉の推進、向上の大きな役割を担っています。校区福祉委員会の構成団体である民生委員、老人会、厚生部、女性会、様々な団体とのコミュニケーションを通して、各小中学校区で実施する子育てサロンや地域サロンなどの活動支援が社会福祉協議会の大きな役割であると思っております。

コロナ禍の3年もあり、事業、イベント活動が止まっていますが、今後どうやっていくのかが大きな課題です。少しずつ、活動が始まっていますが、コロナ以前の状態に戻るにはもう少し時間が必要です。ただ、コロナ禍で体験したことを今後どのように生かしていくのかが課題だと思っております。また、社会福祉協議会は、スタッフ不足にあります。「雅び」の活動も含めて、なかなか元の状態に戻っているとは言えません。

こうした状況について、校区福祉委員会を中心とした形での活動、取組みを強く進めて推進していくべきだとは思いますが、現状では、各校区ごとの町会や老人クラブが、会員数も含め減少し、担い手も高齢化しているという問題があります。地域福祉全体を各校区ごとに分割ではなく、全体として取組みを強めていく形で機運を高めていくことなどが課題だと認識しています。

(副会長)

人材の問題、校区福祉委員会、それからネットワーク「雅び」の在り方に対してもやっぱりある程度見通

しを持っていかなければならないということが少し伺えます。こうした関係も含めて連合区長会のご意見をお願いします。

(委員)

8期計画の大きなビジョンである「いつまでも健康で、活躍でき、安心して暮らせるまちづくりをめざす」は、第9期も引き続いて、バックボーンとなると思います。

本来は、介護を必要としない状況になれば一番いいと思います。そのために、介護サービスを受ける年齢で区分して前期高齢者や後期高齢者ということではなく、要介護とは関係のない年齢層から何かアプローチできたら、将来的には介護を必要としない方々が元気に活躍されて、健康で暮らせるまちになると思います。例えば、ウォーキング事業などは、国保など医療保険で取り組まれています。医療保険と介護保険で分ける必要はなく、介護予防や健康づくりの政策の充実、推進という観点で介護保険事業の中で特に力を入れて実施できないかと思います。今後、介護を必要とする年齢層が上がり人数も増えていきます。長いスパンで見て、早い段階から積極的に取り組んでいく必要があります。

豊岡市が実施している「とよおか歩子（あるこ）」アプリは、市民の方が歩いてポイントを貯めて、学校の子供たちに寄付をしようという取組みです。今回の意見書では、大阪府のアプリのポイント制度を紹介しましたが、これは、自分のためのポイントです。豊岡市では、子供たちのためのポイントとなっています。前回の会議では「羽曳野市独自の計画になれば」という意見も出ていましたが、先手を切って「大阪の羽曳野はこんなことをやって、子供たちに喜ばれて、街の中でも頑張ってる。どんどん元気になる、何年後に効果が出てくる」といった、そういう大きなビジョンを第9期計画で持てばどうかと思います。

(副会長)

子供たちに寄付するっていうのは素敵なアイデアです。

地域で、町会活動などで高齢者の方がいろんな取組みをしようとしたときに、うまく繋がらない場合があるというお話がありました。町会の方では、校区福祉委員会の活動や、「雅び」にも関わっていらっしゃる方も多いと思いますが、活動に対しての意識や、いろんな取組みとの関係性、また、先ほどの高齢化の問題についてはいかがでしょうか。

(委員)

地域性があると思います。地域の絆がある地域もあれば、一方で新興住宅街として他所から入ってきたメンバーで構成されてる地域があります。また、共働き家庭が増えて地域で活動する時間や人材が確保できていない状況も多くなっています。このため繋がりが希薄になっており、PTA活動一つにしてもなかなか積極的に取り組めないという状況があります。ただその中でも、それぞれの団体ごとの横の繋がりとというのが、大切です。何か一つまとまった事業を一緒にやっていって絆を深めていくような取組みをしている地域は、非常に上手く機能して回っていると思います。

また、老人会だけでなく他の団体もメンバー層が薄くなってきており、新しい会員が入ってこないという状態はどこにもあります。それは、団体の魅力がどうのということではなく、時間的な余裕がないといった状況があつてのものです。子育て分野でも、もっと子育てをしやすい地域づくりは必要です。子供たちが自由に安全に遊べる場所も必要で、そのために地域で子どもを見てもらうということになれば、今度は子育てをしてもらうそのお母さんも、地域の中で何か活動ができるという具合に連動していくと思います。

そのための特効薬はないとは思いますが、皆さん方が、コミュニケーションを図って、いろんな意見の中で自分たちの意見も含めて相手の意見を聞いて進めていくというのが一番大切ではないかと思ってるところで、地域によっては十分機能されている地域もありますので参考となるところもあると思います。

(副会長)

地域での取組みは、計画の中でも重要な部分があると思いますから、それをサポートしていくという立場から、計画に落とし込む必要があると思います。地域包括支援センターとして、地域支援、サポートということも行われていくと思いますので、なにかご提案等がありますか。

(委員)

先日、包括のセンター長会で3包括のセンター長で話をしました。次期の介護保険の報酬改定の中で出ていますが、地域の力を使って、地域の中でお互いに支え合う仕組み作りをどんどん進めていかないといけないということで、まだ具体的なことにはなっていませんが、その方向性を打ち出すであろうところでは、それを共有したところです。

羽曳野市として、その地域を支える仕組み作りができていくかという点では、まだまだ十分ではないのではないかというお話がありました。地域の中で展開されている100歳体操や、小集団でも、まとまって活動していただいているところに、そういう役割を持っていただいたり、あるいは呼びかけをして、施設の何かハードの面、あるいは人材というソフトの面を活用しながら、全部が事業所がやるというよりは、事業所と地域の方と一緒にやっていくような仕組みづくり、そういうものも必要になってくるのではないかといいところも共有したところです。こうした事業を介護保険事業に絡めていくことが重要かと考えています。

(副会長)

介護保険の事業者さん、連絡会もあって、地域と連携しながら、地域の力を主体性を引き出すようなそういう事業をバックアップしていける、あるいは協働で行なっていけるようなものが一つ重要なことになってくるかと思いますが、介護保険事業関係で、ご意見いただければ。

(委員)

地域と事業所の連携はやっていくべきだと思っています。地域包括ケアシステムは国が推進していますが、なかなか書いてるようには、うまくいかない部分もあると思います。事業連でいろいろ関わっていますが、事業者さんは、地域に向けての活動は一所懸命やろうとしておりますので、そのあたりからこれからどんどんと連携をとっていきたいと思います。

資料3(第9期計画の論点整理)で、緩和型とかデイサービスの事業のことが書いてますが、なかなかケアマネジャーや、各デイサービス事業者さん自体がこの仕組みの理解を深めておられないと思っています。現行相当というふうに流れたりとか、その現行相当と緩和型の違いっていうのも、やっぱりプランをつくるケアマネジャーや、サービスを提供する事業所にもう少しわかりやすく具体的に説明をする機会があれば形も変わってくると思います。

先日、他市のケアマネジャーさんとお話する機会があり、医療と福祉の連携は、羽曳野市はすごく進んでいると思いました。羽曳野では、ドクターも、介護の職員さんたちの目線でいろんな物事を考えていただけており、すごくありがたい市だと感じました。他市では全然連携ができてないところもあって、やっぱり相談しにくいとかいうコメントがいっぱいありました。そんな中で羽曳野ではすごく連携できてる部分とか、いろんな協力関係にある部分とかもあるので、これから地域と事業所、また医療、福祉というのは必ず連携をしていいものになっていくのではないかと考えています。

(副会長)

専門職の間での連携について、三師会とか、事業者、あるいは包括等々、かなり連携して取り組まれていることがあるということです。そこを強化することに加えて、地域との繋がりというところで新しく生み出していくため、生活支援コーディネーターがそういう役割の方だと思いますが、そこも連携しながら、取

り組んでいくが重要だと思います。

市民代表としてご意見いただいています。

(委員)

個人的ボランティアとして長年地域の老人の方と関わってきましたが、いろんな輪に入ってこられる方が本当に元気になっていかれるんです。鬱とか躁とか病気があっても、1回、2回と参加される度に明るさが違うんです。

今、独居老人が多くなり、その方も年齢を重ね、90歳近くになってくると、寂しさが湧いてくる。そういう方が地域で多くなりまして、長いこと関わってますので電話をいただくんです。寂しいとか、こんな問題が出てきたとか、家族でこんなこと言われたとか、いろんなこととお話されます。2回、3回と、お宅に伺いますと、明るくなられ、また受け止め方も変わられていかれます。いつまでたっても人との繋がりは、ものすごく大きい。病気も治るぐらいの大きな力があると思います。

私自身も、ボランティアもやめさせていただけるような年齢にはなっていますが、まだあちらこちらで、必要とされてるのかと思い、また私自身の健康のためにもまだ頑張りたいと思っています。お話をし、笑い声を聞き、そして握手して帰ってくる。そういうことが、どれだけの、励みになるか。私自身も励みになる。

今日もカフェがありました。週に1回、月曜日に、お正月だけが休みでお盆も祭日も月曜日になったら開きますが、45名、50名が参加されていますが、お友達とゆっくり話ができるということで喜んで来られるんですね。また、NPO法人がやってるんですけども、「買い物も大変やろう」ということで、八百屋さんがある道の駅へたくさん仕入れに行っ、みんな喜んで買って帰られる。そういう何か年寄りが喜ぶことを、どういうことをやろうかっていうことを常に考えてやっています。

ビオトープでは、子供たちを喜ばすということで、幼稚園児、そして近所の子供たちが、週に2回、めだかの学校とか、ザリガニ取りなど、皆さんの協力で、子どもたちに喜んでもらっています。

そういうことがあと何年できるのかということがあります。ボランティアの平均年齢は高いので、もうあと5年は頑張れるかなっていう段階にきており、今から本当に心配していますが、できるときは一生懸命やろうってということで、やらせていただいて、自分の力とさせていただきます。とにかく人と接することの大切さ、人の輪に入る大切さ、そういうことはもう本当に身に染みて思っています。

(副会長)

非常に貴重な意見だと思います。私も意見を出させていただきましたが、要するに高齢者が持つる力をもっともっと活用して、もっと引き出して、高齢者に活躍してもらおうこと。子供たちとの関わりだったり、あるいは障害持つる人たちとの交流だったり、様々なところで活躍できる高齢者の方がたくさんおられます。

お話があったようにNPO法人ベースで、様々な取り組みを展開されていて、そこに多くの高齢者の方々も活動に加わっていているという、こうした、地域にある地域資源としてはとても大切なものだと思いますので、それを育てていく、手を組みながら、高齢者が活躍できる場を開拓していく、声掛けしてどんどんそういう可能性のある人が前に出てきてもらう、こうしたことは大事な視点だと思います。

ぜひともそういう視点を、具体的なケースがあれば、それを参考に、あるいは先ほど出されましたが、うまくいった地域もあればしっかり紹介することによって、また他の地域も学んでいける、より良い取組みに繋がる可能性がありますので、そうして背中を押せるような計画になるといいと思います。

婦人団体の方から何かご意見とかご提案とかございますでしょうか。

(委員)

地域の婦人会、羽曳野市の婦人会と関わっています。地域の繋がりを進めるため、町会には厚生クラブ、

町会厚生クラブ、婦人会の3つの会がありますが、会のメンバーもお年寄りがもう大半になり、また、人数も少なくなってきました。そして、行きたくても公民館までも歩いて行けないという方も多くなってきており、少しでも外へ出て、来ていただくには、どうしたらいいのかということ、よく皆で相談をしています。役員さんも高齢で、「主人の介護があったり、孫を見ないと」ということもあり、なかなか行動ができていません。

いきいき体操は、今年の春で、2年、3年近くも休んでいますが、今年の2月頃から、やっぱりちょっと体がしんどいんで、体操したいなっていう方が出てきています。私どもの地域だけで、ひっそりと、10人程度ですが週1回で始めかけています。

そうすると、お喋りも始まるし、約45分ほど、機器体操と、たけるちゃん体操の二つするんですけども、結構汗かくんです。やはり、声を出して喋る。自分の言いたいことを話してできる。それをまた聞かしてもらおう。それが今、一番元気になって帰っていただけると、いつも「来たときと帰るときと声のトーン違うね」と、お互い言い合いをして帰るんです。

ちょっとしたことでですけど、道で会っても声かけれるし、主人からは、「お母さんようけ人知ってるね、僕の方がここで長いのに」と言われることがあります。いろんな方とも顔見知りになって、声かけてもらったり、またちょっと顔見なかったら、「どうしてんのん」という具合に声をかけたり、そういうふうな小さいことですが、私もそれで元気いただいています。

(副会長)

ありがとうございます。今本当に足元でしっかり活動されてる方々のお話ですので、十分に反映できる内容があるかと思います。三師会の先生方、いかがでしょうか何か。ご意見いただければと思いますが。

(委員)

羽曳野市医師会です。今後、高齢化が進行し、少子化も進行して数年後には10万人を切るという推計になってます。その中で、健康高齢者と虚弱な人と要介護者を分けて考えていった方がいいと思います。

健康な高齢者は90歳になっても仕事行ってお給料もらっておられる方がおられます。健康な高齢者で自宅におられる人は、シルバー人材センターに行かれるなど、地域で活躍できるような場を、アナウンスすることが必要です。

フレイルの高齢者や虚弱な高齢者の方、また、要介護じゃないけども家に閉じこもり気味でちょっとした病気もあるなどの方については、要介護者にならないための施策を明確にシステム化して、いろんなところに広報をする必要があります。

いきいき体操もありますし、いろいろと運動の場もあります。コミュニティでいろいろな取組みも地域でしておられます。ただ、知ってる人は知ってるけども、知らない人は全然知らないという状況です。

フレイルの方や、家で虚弱で一人でおられる、また、介護は必要なく自分で買い物に行ったりとかできるけども、今後、家で居ると要介護者になってしまうという不安のある方、そういう人たちの介護予防とか、健康づくりが非常に重要になってくる、これが一つ肝であると思っています。

要介護者については、終末期を今後どうするか課題です。年配の人が老老介護したり、その息子さんがリタイヤして介護していることなどがあって何とかもってるという印象を受けています。前回会議で報告のあった調査結果では、現在介護している人が高齢者になって要介護になったときに、介護する人がいないという状況がありました。今は介護ができるけれども、今後はわからないという人が結構多かったと思います。そういう人たちにどのように対応していくのが課題です。一人暮らしの場合は、全てを介護保険サービスで賄うとおいうことでは厳しいとがあります。サービス付き高齢者向け住宅は、今のところ、公的な管理など規制が入ってないと思いますので、こうした民間の高齢者住宅が地域に合った形で展開できるように事業者アプローチし、うまく有効活用することができるようになることが必要だと思います。

(副会長)

歯科医師会の先生お願いします。

(委員)

何回か会議に出て、こういうことやってるんだな、皆さんこういうふうな状態で、こういう考えのもとに市側の方も、計画立てて実行していこうとしているというのは、ようやくわかってきました。

医院に来られる高齢者の方は、歯は悪くはなってるけれども、ご自身で通って来られ、健康で生活自体は自立されてる方がほとんどです。高齢者の実情として実際どうなってるのかというのは、全く把握することができません。先ほど老人クラブの会員数が減ってきているということでしたが、私の感覚としては高齢者の方が増えているので、会員数っていうのは右肩上がりですと上がっていて、中には活動できない、やりにくいという方もいらっしゃるぐらいの感覚でした。

こうした会議に関わることがない方に関しては、状況はわからないと思いますので、広報というか、現状を知ってもらう、どんなサービスがあるのかも知らなければ、アクセスすることができないので、そういう広報が必要だと思います。

先ほど、「ご自身の周りの方との繋がりもあと5年かな」と言われてましたが、そうしたフィクサーになる方が近くにいる人はまだいいけれども、1人で家に閉じこもってしまう方に関しては、どうしたものかという点は課題として認識しています。歯科医師の立場からとなると、動けなくなった方に関しては件数が少ないですが往診もなくはないので、そうした広報活動というのはしなければならぬと思っています。

(副会長)

歯科医院の先生には、口腔ケアとか地域に出向いていただき地域と繋がりをぜひ作っていただきたいと思います。

薬剤師会から、ご意見いただけたらと思います。

(委員)

薬剤師会です。皆さんのご意見をお聞きし同様のことを考えていると認識しました。

サービスの使い方がわからない方や、困りごとがある方をどのように拾い上げていくのかという点で課題があると思います。本当に困ってる人は多分、どこにも何も言えてなかったりしている状態にあると思います。本当にどうしようもなくなってから、誰かしらが拾い上げてくれる場合はいいのですが、拾い上げができない人、そういう輪の中に入っていきこうとしない人の対策も考えていくことが必要です。

アクティブに動いてる方は、それを継続していただいて、そこに入れない方をどのように対応していくのか、そういう方々が輪の中に入ってきたら、その方たちも変わると思います。

(副会長)

潜在的な形で、そういった方がいらっしゃる可能性があるのもそれをどう拾い上げていくか、どのようにして、そういう人たちに見守りの目を届けていくのかということだと思います。重要なポイントだと思います。あと市議会の方からお願いします。

(委員)

老人会のこの発言がありました。7,000人が令和元年から37%も減少したという現状を聞いてびっくりしています。コロナ禍の影響は大変大きかったと思いますが、地元の厚生クラブに早くから加入をして一緒に動いてきましたので、いくつか私案として思うことを述べます。

現在地元では、歴代区長は必ず年齢関係なしに老人会に入ってもらうことにしています。その中で意識が大変高くなっています。歴代区長が、区長会が必ず入っていくみたいなルールが自然とできればいいと思いました。また、人の繋がりといのは、個々に違います。「このままでいくとだいぶ減るぞ」ということで、1人1人が持つる人脈を使って訪問しました。その結果、結構な人数まで人が増えています。

先ほど歯科の検診の話が出ました。私は元歯科衛生士ですから、歯科検診、口腔ケアは大事だと思っています。口腔内が綺麗で歯牙がいっぱい残ってることは大事で、昔は8020と言われてましたけど、今は8024と言われています。要するに大白歯までしっかり残せという時代が変わってきてます。なぜそう言われているかという、結局20本ということは上下で言うと左右に5本ずつぐらいですから、小白歯というところぐらいまでしか歯がありません。物を噛むということは、大白歯がしっかりあって、奥歯があって、脳に刺激がいくことが大切なわけです。脳の刺激がないと認知とか機能障害とかいろんなことが起こってきます。先ほど医師会の先生が言われたフレイルもそこにもあると思うんですけど、できれば歯科検診の重要性や口腔ケアの普及を老人会でも位置付けて活動していくべきだと思っています。できれば100歳体操に口腔ケアを入れたり、歯科検診の重要性を伝えたりすることも必要だと思いますので検討いただきたいと思います。

先ほど、事業者の取組みとしていいなものがあるのご発言がありましたが、地域の取組みも沢山あると思うので、コンテストをしてはどうかと思います。お互いに「うちはこんなことやっていて」と、良い例や成功例を学ぶことで、各地域で参考になるものを取り上げていったらどうでしょうか。

(委員)

もうひとつ方市議会からいかがでしょうか。

(委員)

地域包括センターはこの間、委託が2ヶ所増えて3ヶ所になりました。それぞれの地域で課題や特徴があるので、中学校区単位での地域包括支援センターが欲しいと思っていました。ランチもありますが、地域の、身近なところで相談し解決できる場が地域の人には本当に必要だと思いますので、住民に近く、密着してらっしゃるという組織があれば、本当に助かると思います。

先ほどご意見もありましたが、地域包括ケアという意味では、子どもも含めて地域の全ての人たちが、お互いにコミュニケーションをとって、それぞれ地域の中で、それぞれが気に掛け合う関係で、繋がっていくのが、地域のいろいろな団体も活発化していくと思います。そういう意味では、地域包括ケアシステムは、高齢者だけではなく子育てセンターも含めたケアのシステムが今後必要ではないかと思いました。

共生型サービスについては、障害サービスを受けておられた方が65歳になって介護保険の方に行ったら、精神的に落ち込んでしまって、いろんなトラブルがあったという事例がありました。介護サービスを提供している事業所にとっても、障害特性に応じたサービス提供はなかなか難しいです。学習会とか研修会をもっと持っていただいたら、お互いがね、やっぱりサービスの質は落とさないようなサービスができるんじゃないかと思っています。

(副会長)

その他いかがでしょうか。

(委員)

大阪弁護士会です。皆様、地域で様々なことに取り組みられ、本当に素晴らしく感動して聞いておりました。残念ながら我々弁護士のところに相談に来られる場合は、なかなかうまくいかずに疲れているということが、残念ながら結構あります。地域の方々が頑張っておられた結果として関わった方みんな疲れて、それ

で弁護士のところ相談に来られるというものです。

現実にそういう場合、つまり様々なことが、法律上も事実上もいろんな問題が起きていて、結果としてご相談に来られるというのは、せっかくのケアシステムとか、地域の方の労力とか、やる気とかが、いい方向にいかないってことは、残念なことですので、やはり地域の活動、行政とか、いろんなバックアップ体制をきちっと整えていただいて、皆さんの活動がより充実したものになるようにしていただきたいと思います。

皆さんの話を聞いて、地域の方が活動をしていただく場面において、行政の方が介入した方がいい場面とか、むしろ専門家が介入した方がいい場面とか、うまく切り分けていただけるような、そして、うまく活動できるようなバックアップ体制が大事なんじゃないかという気持ちを新たにしました。

5. 議事次第 「5. 今後の審議について」

(事務局)

貴重なご意見をいただきありがとうございます。

本日いただきましたご意見等の取扱いですが、事前配付資料の4を更新する形で、今後お示ししていくということで対応します。

次回、3回目の会議の日程は、10月5日の木曜日、別館2階研修室を予定しています。議題としましては、計画の骨子案をある程度お示しできるように作業を進めます。国の審議会の動向で、給付と負担については夏までに結論が出るということでしたが、年末にずれ込んでいますので作業にも影響を与えることが予想されます。ご意見、ご提言については、いつでも事務局でオープンにしていますので、高年介護課の方までお伝えいただければと思います。

(副会長)

ご意見等につきましては、是非ともそれをしまい込まないで、市役所宛への質問、意見、提言という形で出していただき、皆様の方からのご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、羽曳野市介護保険等推進協議会の議事は終了となります。委員の皆様、ご出席いただき、ありがとうございました。

6. 介護予防支援室長まとめ・あいさつ

本日は、第8期事業運営のまとめ、また第9期計画策定の課題などにつきまして、ご審議いただきましたところ、貴重なご意見ご提言をいただきありがとうございます。今回初めて、委員の皆様の実際の意見をお伺いしたいということで、進行していただきました。アンケートの結果や、サービスの利用量など数字的なものから考察し議論をいただくことが多いわけですが、全体として皆さんのご意見を聞かせていただき、非常に生きた計画を作っていけるのではないかと思います。本日はありがとうございました。